





祖父瀧澤左仲興書房筆記

宝曆二壬申年書記

瀧澤文庫



序

真如堂ニ参リテ本尊ニ祈ル我此界ニ生レテ日ニ夜  
 惡業ニ交合ラ染シテ六塵ノ境ニ觸レテハ五不造惡  
 斯レ惡業ノ我ニ極大慈悲ノ波及定住生ハヤマ本尊  
 在家凡俗ノ身疑網難晴願々殊大慈悲ノ明示  
 玉ト祈リ又レ其夜及深更ニ各々夢知本尊  
 以テ首ノ哥ヲ示シテ  
 只頼ノ方ノ罪ハ深ク我本願ノ有ラシ限リハ  
 以タノム人ハ雨夜ノ月ナシマ雲ハレテ西ヘコソケ  
 初メノ哥ノ音ハ我法眼ノ昔ニ却思惟ノ難行  
 偏ニ如汝等ノ為救罪根深重平生ヲ本願ニハ  
 汝方罪ノ左ニ右ニ付我身惡思強々助念  
 南無唱ヘヨ我本願ノ有ラシ限リハ一人モ不漏皆悉  
 極テ迎ヘント示現也。次ノ哥ノ意ハ雨ニ夜月ハ  
 覆レテ雲少モ不見其自次第ニ傾ニ雨終ニハ  
 入山端今日念佛行者モ如左常ニ只惜マ  
 貧ミト思テ而復シ惡業ニ交合云々本有佛性月先  
 不見行住ニ南無申テ送テ年月次第ニ  
 西ノ頭テ最後臨終ノ曉ニハ必多不入西方ノ端ニ  
 也然レハ善光寺妹ハ我ハ濁レ水ニ宿ラテ示サレ真如堂  
 本尊ハ善人惡人男子女人嫌ニテナク罪ハ何程深シトモ  
 目ヨリ何ト重ク我本願ノ有ラシ限リハ南無云々知  
 ヘニ迎ヘント示現ナレハ合掌願飛ハ起レ終日起テ  
 打捨テ只南無申テ定住住生疑ニシ

○イカマウノ罪人タルハ一吉モ念仏申ハ毎ニ不往生極示ニ  
 然レテ西ラ造レト北ス不犯ヲ慎ラレ西念ノ慈ハ凡夫  
 ノ癖ニ去ク去ク改メテ成善人ト念仏タル人ハ殊ニ  
 殊大慈悲心但嫌本願ニ有文ニ欲生我國稱我  
 名号ト有ハ心ノ内ニ極示ハ多クテ思ヒ口ニ南無ト  
 申レハ願行具足合念ニシテ善人惡人凡ニ住生ス  
 而ニ不起極樂參多思心不空念仏進ム人ハ誤  
 不造惡不遂住生ト也  
 每人身上不造惡善根難成極思ヘリ是大成  
 證リ也善モ西モ心有テ一設ヒカカレ念人マモ  
 誰成テ三能ノ前ノ習人ニ与一不トテ道行ニ



知諸自罪人... 念佛急勸罪人已... 責声只一念南... 口称念佛... 右ハクワリ道... 〇敬シモ 死ラセ... 〇拱タヌタス...

熊谷ユラコキニ於テ有時自道從京都仙師  
 法橋道ケイヲ呼テトウ身ノ像ヲ造ラシム  
 ニシテ像ハ我カ像ニ非ストテ斧ヲ以割之三度目ノ像  
 自道ト大声ニ呼テハハラナク今ハスル院  
 ノ祖師像是也自道切利支丹ヲ破テ片肥刻  
 三福寺ニ於テ四ハハ説法シテ片富ツカを破カ  
 女房ノ入長崎工渡リ至ヒ修行ノ片作久ル  
 紀列和可山バンシウキニ自道上人七十四ニ遷化  
 自道ニ運歩ヲ教テ年以大滑大沙之術  
 トシヒテ自ラ筆ヲ執テ書付南元  
 唱終  
 大葬ニテ後自キ灰ト成コソ少モシニ灰中  
 常ニ持テ珠散フナホリモセスワキ糸モ不境  
 有テ大才子ランリマウ和高母ト歩貞尼  
 受之

家兄瀧澤興吉君遺墨

天明五己巳年  
 先此の遺財配分の事ハ家譜中ハ  
 引ノ記ヲ合セテモ其意ヲ  
 受之

己巳年六月十日  
 母ニシテ此病氣重クハ  
 夢以希也例ニ石ノ  
 以任事ノ跡ニ別  
 所遺云有之此後ハ  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

右ノ刻

心海堂  
心海堂

心海堂

内年列  
少程

右之割

旅支

東次郎

三支

法政

三支

七七

三支

おらん

三支

おらん

心海堂

あし

心海

西次郎

心海

心海

心海堂

心海堂

心海堂

心海堂

心海堂

心海堂

心海堂

右は松井の内室とあり戸田徳州の用人松井後安の妻の兄親戚ありありと云  
右は松井の内室とあり戸田徳州の用人松井後安の妻の兄親戚ありありと云  
右は松井の内室とあり戸田徳州の用人松井後安の妻の兄親戚ありありと云

右同筆 寛政九丁巳年

心海堂



家兄瀧澤興春君簡牘

天明五乙巳年  
清次郎八仲兄瀧澤興春君  
稱之この年甲子のちまをて俊光羅  
文君はまのちまをてのちまのちま

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面

由定候付奉中亦色面





松尾重九郎  
孝行  
江戸橋本太  
夫八戸田  
家の用之

恒川氏  
新差の  
孫也  
江戸橋本  
の老母  
を侍  
江戸家臣  
の用之  
在江戸

湯子川に舟をくだりて  
舟に酒を置けり是は  
由河の噂の故に舟

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

舟に酒を置けり是は  
舟に酒を置けり是は

高井土州はは  
高井土州はは

右に申上度事  
月向先使  
申上度事  
申上度事

二  
渡江

申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事

仲元鶴忠君は去年高田生を離別し母田を去り高井土州はは  
右の事をも常伯兄の面をて預り先流の者病を預りし事比の事

右同筆 天明六四年

仲元鶴忠君水谷信州はは  
俗稱を初を更と改めし事  
左五郎の解の事母の俗稱に二妹秀  
崎山生へ遺贈され比の簡贖之の事  
八月四日仲元あつた  
世を去り比の事  
廿二歳に哀しく

右同筆

申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事  
申上度事

Handwritten cursive script, likely the start of a letter or document.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten cursive script, continuing the text.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name, located at the top right of the page.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or a title, located in the upper middle section of the page.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name, located in the middle section of the page.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name, located in the lower middle section of the page.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name, located in the lower left section of the page.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name, located at the bottom left of the page.

可なりと連中より

送 小まき跡限しりまの京

あのみさうの田んぼ里を

信一

大ら

この寛政三年冬十二月伯兄羅文居士の王君山口直良君の俱  
中れ大坂津城代引呈の命を被地へ赴き宿ひとれよと云れ  
おろしひ道中の御草心



松よ子の日乃子代を壽よ

東よ子里の希と画と

拙よ類する乃續おえとや

阿ふ縁し画井の白

白中一の画とも風流よ

便あんと例の四友

よ中居とひつ俳諧乃

清く縁分十玉負と歌を

さハ逸樂の声は兼あ

和奇の優艶あまや

取る子似れと志の

...の産物

和奇の優艶あまを

恥る子似れと志のこ

去のなれ花のつり

娘の蟬乃樹の鳴り流

曲の節乃のこころ

四射の空お四友の海り

水とあり暮のこころ

月子感一美まかれ

或るい花のこころのこころ

信説のわがこころを交え

ちるやねる神のこころ

あまのあまのこころ

あまのいひのたのこころ

見ぬあまのこころ

六の...  
いふ

高の...  
見ぬおし玉の

高の...  
都の巻中乃

白く...  
長髪と

あく...  
これ

高の...  
代

何の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

高の...  
あ

松石の投し判をくら

雪子熟し序を述又

うれの甲乙をくらちぬ

時歌少きのしめしめ

印ふちハ香あり又也ハ

くらり志ハあれし

晴しのしめし強しを

肩のしめし弱し

定めのしめしこのし

杉まのしめしの四子の一癖

あふめしをさ末の羅文

くらりしを流るるのあ

寛政九年丁巳

東岡舎

初七日

羅文藏



右の編ハ伯兄四雅文君俳諧十百韻の跋文ハ文中ハ雪子とあり兩井  
右京亮の家臣吉岡定八郎俳名之風月蒼雪破とあり是則十百韻の  
判者也伯兄とすまの俳友多し又四子とありハ田丹後也秋の家臣豊田  
父采有也俳名蘇山同家臣松井茂九郎俳名自得八木十之郎  
姉家臣浪人遠山信九郎後改名俳名孤遊これ皆伯兄の昔友多し  
これハ解を加つて四子と稱せられこの跋文ハ伯兄甲陽道中ノ記のこと  
別子一卷子ハ此の跋文ハ表装の目この巻の後ハ合巻とす



